

学校林でのネイチャーゲームの活用

遊佐町立稲川小学校

佐藤 裕子

1, はじめに

山形県遊佐町は、鳥海山の南山麓の庄内平野に位置し、日本海を西に望む自然豊かな町である。わたしの勤務する遊佐町立稲川小学校は、町の中心部から西よりの海岸部から、小高くなっている砂山の防風林としての黒松林、平野部の田畑までを含む学区で、学校のまわりは、広い田になっている。学校より20分ほど歩いた防風林の黒松林は、学校林として、「いなほっ子の森」と呼んでいる。黒松林は、昨年度より学校林として利用されているが、どのように利用するか、どのような活動ができるか、まだ手探りの段階である。

そこで、3年生を担当するに当たり、学校林でネイチャーゲームをして、年間活用ができないかと考え、活動を始めた。

2, 活動計画

総合的な活動 「いなほっ子の森で季節を感じよう」 11時間扱い

小単元	時間	ねらいとアクティビティ
いなほっ子の森 で春を感じよう	5月 4時間	・森の様子を感じとることができる。 音いくつ サウンドマップ 木のフィールドビンゴ
いなほっ子の森 で夏を感じよう	9月初 3時間	・夏の森の様子、春の森との違いを感じとることができる。 音いくつ フィールドパターン
いなほっ子の森 で秋を感じよう	11月 3時間	・秋の森の様子、春や夏との森の違いを感じとることができる。 音いくつ 森の色あわせ

- ① 学校林への行き帰りの30～40分を含む。
- ② 帰ってきてからのまとめの活動1時間をとる。
- ③ 冬は、風が強くと吹雪になることが多いので、活動をしない。

3, 活動の実際

① いなほっ子の森で春を感じよう

5月20日(木) この日は酒田祭りの日で、学校は3時間授業である。その3時間を

すべて使って、いなほっ子の森に行った。持ち物は、リュックに雨具、水筒、敷物などである。3年生にとって、いなほっ子の森に行くのははじめてである。とても楽しみにしていた。(昨年は、学校林はじめての年であり、昨年度の4年生がいろいろな活動をしていた。)前に下見をして、子どもたちが十分座れる広さの場所があること、安全も確認した。

歩いて20分程度で、学校林に着く。最初に、リュックを置いて一休みする。学校林の一部は、昨年度4年生やその保護者、地区の人たちで整備した遊歩道や、丸木のベンチなどある。子どもたちは、ベンチのところで水を飲んでゆっくりしていた。

最初のアクティビティーは「音いくつ」をした。

子どもたちを集め、春の森にどんな音が聞こえるか想像させた。「虫」「風」「鳥」などの声が出た。その話の最中にも鳥の鳴き声が聞こえてきた。早速、1分間音を数えた。分かち合いをしたら、風のヒューヒューする音、機械の音、電車のような音、いろいろな鳥の声、海の音などが出てきた。朝だったので、いろいろな鳥の声がして、びっくりした子が多かったようだ。2回目は、鳥に注意して聞かせた。1回目で1種類しか分からなかった子も、いくつかの音を聞き分けることが出来ていた。また、自然の音を「気持ちのいい音」と感じる子が多かった。

次に、サウンドマップをした。サウンドマップの紙と鉛筆をわたし、やり方の説明をした。例示もしてやり方が分かったところで、すきな場所を決め、動かずにサウンドマップを書くように指示した。なかなか場所が決まらない子や、決まったところから移動して音を出してしまう子もいて、なかなか集中がむずかしかった子もいた。分かち合いでは、風の音、波の音、車も音など、楽しんでカードに書き、いろいろな音があったことに気づくことができた。

最後に、「木のフィールドビンゴ」をした。遊歩道沿いを範囲にして3~4人のグループを作り、遊歩道が終わるところで集合をかけた。松が多いところではあるが、桜や、コナラなどの木もあり、いろいろな木肌や、つる、こけなど、ほとんどを見つけることができた。分かちあいでは、太い木や、大きな葉っぱ、たくさんの毛虫など、見つけれられたことをとても喜んでいた。この日は、最後に、学校林全体を知るため松林を抜け、海が見えるところや、木の間など、自分が見たいところを見て、遊んで、学校にもどった。特に海は、遠くに広く見え、感動した子が多かった。

後日、学習のまとめをしたが、木の肌にいろいろあったことを触って確かめたことや、風、鳥の音などが印象に残ったようだった。

② いなほっ子の森で夏を感じよう

暑い夏が来た。夏休みを終えた9月3日(金)2,3時間目に、いなほっ子の森に行った。下見の際、夏の間生き茂った草が多く、いけるかどうか心配だったが、歩くところだけ、少し草刈りしておいて、出発した。子どもたちには、草が生い茂っていることを伝え、暑くても長袖長ズボンを準備させた。ほかの持ち物は前回と同じである。

学校林への行き帰りも草が生い茂る道を歩かなければならず、低学年では無理だろうと思われた。

学校林は、どこにベンチがあったのか、遊歩道もよく見なければならぬほど草が生い茂っていた。子どもたちは、まずそこから春との違いを感じていた。最初に春にやった所

と近い場所で、「音いくつ」をした。春と同じように、鳥の声が聞こえると想像した子が多かった。しかし、夏は、虫の声、風の音がよく聞こえた。時間も10時を過ぎていたので、鳥よりも虫になったかもしれない。しかし、春との違いとして、子どもたちはとても心に残ったようだ。

続いて、「フィールドパターン」をした。カードを配り、やり方の説明をした。春に、1度来ているので、学校林全体を使い、集合場所と時間を決め、3～4人のグループで行った。男の子のグループでは、草の中に入って探検するグループがあったり、葉っぱの丸まった虫こぶのような物を見つけて、不思議がっている女の子のグループがあったりして、思う存分歩き回っていた。30分ほど、ゆっくり時間をとり活動した。分かち合いでは、ほとんどの形を見つけ、自然にはいろいろな形があることに気づいた子が多かった。

まとめの学習では、草の大きさ、生い茂り方、虫や蜘蛛、蜘蛛の巣の多さ、いろいろな形などに気づいている子が多かった。

③いなほっ子の森で秋を感じよう

夏に行ったときに、草がたくさん生い茂り、安全に活動しにくいことがあった。そこで、PTAにお願いして、草刈りをしてもらった。しかし、平成16年は山形県などの日本海側に台風が何度も来て、防風林や農作物のなどに大きな被害が出た。コナラなどの実が青いうちにたくさん落ちてしまい、桜など広葉樹は、塩害で一夜にして葉が茶色に枯れてしまった。また、その後なかなか寒くならず暖かい日が続いた。11月10日(水)2,3時間目にいなほっ子の森に行ったときには、桜の花が4～5個ぽつんぽつんとさいていた。下見に行ったとき、今年は、木々の紅葉は無理だろうと思い、「森の色あわせ」ではなく別の物ができないか考えたのだが、木ではなく、草に赤い葉や実、黄色い物もあったので、計画通り実施することにした。

暖かい11月だった。歩いていくときも汗ばんでしまうようだった。いなほっ子の森は、草刈りも済んで、遊歩道も広くなっていた。また、葉もたくさん落ちてしまっていたので、明るいところもあった。

最初にまた「音いくつ」をした。子どもたちは虫の声、鳥の声を期待したが、秋の森は静かだった。分かち合いでは、風の音、枯れ葉が落ちる音を聞こえたという。鳥の声も少し聞こえた。春とも、夏とも違う秋を感じた子が多かった。

次に3～4人のグループで「森の色あわせ」をした。カードの一段の中の最低一つの色を見つけて、どこで見つけたかメモもするようにやり方を説明し、ゲームを開始した。集合時間場所を確認し20分ほどゆっくり活動した。子どもたちは、木肌の色、葉っぱの色など探し、ほとんど全部の色を探し出すことができた。ゲームの中で、葉っぱの表だけでなく、裏や、茎の色までも注意深く見つめる子も出てきた。分かち合いの時、そのことを紹介し、みんなで確かめることもできた。

学習のまとめでは、歩いた音が乾いていたことなどから、落ち葉や空気の乾きに気づく子がいたり、毛虫も、蜘蛛も少なくなったことから、春とも夏とも違う秋を感じる子が出来た子がいた。

4, まとめと今後の課題

3回のいなほっ子の森での活動を通して、まずわたしが、その自然の動きに気づき楽しんだ。子どもたちは、ネイチャーゲームを通して、物、形、色などを注意深く見て、様々なことに気づいたと思う。また、3回通して、「音いくつ」をしたが、3回とも聞こえる音がちがっていた。これは、すばらしい発見だったと思う。まず、自然に「ふれて」「さがして」「気づいて」という活動をして、楽しみながら、継続的に活動できたので子どもたちは「いなほっ子の森」に親しみを持つことができたのではないかと思った。

＜今後の課題として＞

①単発にならない工夫

せっかく学校林があるのだから、なるべく継続して活用したい。しかし行き帰りで40分ほどかかってしまうので時間をどのように設定するか問題となる。また、3年生から4年生の保全活動へとつなげることも必要である。

②使える学校林にしていく保全の工夫

今回は、PTAの方々から1回草刈りをしてもらい、活動ができたが、夏は草が生い茂り、たいへんだった。子どもたちの安全確保のためにも、草刈りや保全活動が必要になる。PTA・地域の方々の協力体制を持ちたい。

③全学年での学校林活動

ネイチャーゲームを利用した学校林での活動を全学年でできたらいいと思う。

- ＜例＞ 1年 親子での活動 「木こりの親方」「カモフラージュ」などで親子で自然にふれた楽しい時間を持つ。
- 2年 地域発見 いなほっ子の森にはなにがある？ 「フィールドビンゴ」
- 3年 季節発見 季節によってどんな違いがある？
「音いくつ」「サウンドマップ」「フィールドパターン」「森の色あわせ」
- 4年 保全活動 木の仕組みを知り、育てる。 枝打ち、苗植え、草刈りなど
「木のシルエット」「木を作ろう」
- 5年 保全活動 4年といっしょに草刈り「森の美術館」「季節からの招待状」
- 6年 保全ボランティア活動 ペンチ作りなど 「ホールドポエム」 など